

「古い生き方を捨てる」

2019年02月18日

エフェソの信徒への手紙4章17節～24節　そこで、わたしは主によって強く勧めます。もはや、異邦人と同じように歩んではなりません。彼らは愚かな考えに従って歩み、知性は暗くなり、彼らの中にある無知とその心のかたくなさのために、神の命から遠く離れています。そして、無感覚になって放縱な生活をし、あらゆるふしだらな行いにふけてとどまる場所を知りません。しかし、あなたがたは、キリストをこのように学んだのではありません。キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだはずです。だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっていく古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に付け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。

「著者」は、三度もキリストを知らなかった時のことを思い出させ、「強く勧めます」と警告している。「もはや、異邦人と同じように歩んではなりません。」ユダヤ人である「著者」の異邦人蔑視の視点は拭い取られてはいない。異邦人は、「愚かな考えに従って歩み、知性は暗くなり、彼らの中にある無知とその心のかたくなさのために、神の命から遠く離れています。そして、無感覚になって放縱な生活をし、あらゆるふしだらな行いにふけてとどまる場所を知りません」と言う。確かに、神不在の世界においては、神の愛と命を知らないので、放縱な生活に流され、心は闇に閉ざされ、ふしだらな行いに明け暮れるだろう。「あなたがたは、キリストをこのように学んだのではありません。キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだはずです。」キリストに結ばれて、聞き、教えられた者は、真理が主イエスの内にあることを学んだはずである。真理とは、神はあなたがたを無条件、無限に愛してくださっているということである。だからまず、「以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっていく古い人を脱ぎ捨て」なさいと言う。パウロは、「わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。死んだ者は、罪から解放されています。わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます（ローマ6:6)」と、古い自分は十字架と共に死に、罪から解放され、キリストと共に生き、新生の恵みに与っていると語っている。パウロは、「新生」を「キリストを着る」と表現し、「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです」と書いている。「著者」は、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身につけることだと言う。罪の衣を脱ぎ捨て、キリストの衣を身にまとうのである。

キリストを信じ、従う者は「新しい存在」として、神から聖霊において、「神の国」の住人とされている。それは、私の生が全能の神に根拠を置き、愛して下さったキリストの愛に倣い、愛に向かって生き始める生まれ変わりである。「著者」は、キリストを知る前と、知った後の違いに目を向けさせ、キリストの福音の真理に基づいた清い生活を守り、貫き通すように諭している。